

事業所名: カーサ・パラディソ

令和4年度
福祉サービス第三者評価
評価結果報告書

評価機関(機構07-172)
合同会社 福祉経営情報サービス

福祉サービス第三者評価結果報告書(令和4年度)

2022 年 8 月 27 日

カーサ・パラディソ
管理者 武藤利夫殿

郵便番号 104-0061
所在地 東京都中央区銀座6-6-1 銀座風月堂ビル5F

評価機関名 合同会社 福祉経営情報サービス

認証評価機関番号
電話番号 03-5537-7750
代表者氏名 渡邊廣貴

機構 07 - 172



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名	担当分野	修了者番号
	①	経営	H0403033
	②	福祉	H2001044
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
福祉サービス種別	短期入所		
調査対象事業所名称	カーサ・パラディソ		
事業所連絡先	郵便番号	327-0503	
	所在地	栃木県佐野市富士見町1-4	
	電話番号	0283-85-8787	
事業所代表者氏名	武藤利夫		
契約日	2022 年 7 月 1 日		
利用者調査票配布日(実施日)	2022 年 7 月 8 日		
利用者調査結果報告日	2022 年 7 月 28 日		
自己評価の調査票配付日	2022 年 7 月 8 日		
自己評価結果報告日	2022 年 7 月 28 日		
訪問調査日	2022 年 8 月 2 日		
評価合議日	2022 年 8 月 10 日		
コメント (利用者調査の工夫点、補助者・専門家等の活用などを記入)	利用者調査(アンケート): ・配布は事業所に協力をして頂いた。 事業評価: ・経営層自己評価の中で課題として認識している項目については、その課題に対する対応状況等を聞き取り現状の把握に努めた。		

評価機関から上記及び別紙の調査結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

令和4年 8 月 29 日

事業者代表者氏名 カーサ・パラディソ 管理者 武藤利夫



1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1)自然治癒力の向上と自然との共生 2)人々の居場所を作り出す 3)職員や利用する方々が主役 4)社会に必要とされる法人 5)地域に根付いた愛される施設
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 ・家庭的な雰囲気を大切に支援ができる方 ・利用者主体での支援ができる ・できることは利用者本人が行い、職員はその補助的役割としての支援が出来る
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・利用者の自己肯定感を高められるかわり方 ・一人一人が主役になれる場所の提供 ・利用者ファーストの考え方

調査対象

調査時に事業所を利用している利用者全員を対象として、事前案内の上、聞き取り調査とアンケートによる調査を実施した。

調査方法

聞き取り調査：対象となる利用者の都合を確認して曜日や時間帯を考慮し調査日時を設定した。面談はプライバシーが確保できるスペースを確保して実施した。
アンケート調査：案内文を作成して周知の上、事業所が利用者に調査票を配布し、評価機関への郵送により回収した。

利用者総数

6

共通評価項目による調査対象者数

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合（％）

アンケート	聞き取り	計
4	2	6
3	2	5
50.0	33.3	83.3

利用者調査全体のコメント

施設の総合的な満足度に関する質問では「大変満足」が20%、「満足」が60%、「大変不満」20%であり、回答者の80%が「大変満足」「満足」のどちらかを選択している。
総合的な感想としては、「ご飯がおいしい。買い物訓練の日は好きなお菓子や飲み物が買える。」と、食事や生活面に満足を示す回答のほか、生活面ではプライバシーや居室での生活の快適性、その他設備などに関する意見が得られている。
個別の設問での自由意見は多くはないものの、大部分の設問で自由意見を得ることが出来ている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 利用中の生活はくつろげるか	3	1	1	0
5名中3名から「はい」もしくは肯定的な回答が得られている。この設問の自由意見では「過ごしやすい。」などの回答があり、休日の過ごし方や自立的な生活ができていることを伝える回答が得られている。				
2. 事業所の設備は安心して使えるか	3	1	1	0
5名中3名から「はい」もしくは肯定的な回答が得られている。この設問の自由意見では浴室設備に関し、「たまに滑る」という回答があった。				

3. 利用時の過ごし方は個人のペースに合っているか	4	0	1	0
5名中4名から「はい」もしくは肯定的な回答が得られている。この設問では忘年会や旅行、食事、日常生活などで満足している旨の回答のほか、「過ごしやすい」「ゆっくりベッドで眠れる」等の回答が得られている。				
4. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	3	2	0	0
5名中3名から「はい」もしくは肯定的な回答が得られている。館内は「きれい」になっているという回答のほか、共用部分を利用者が自分たちで清掃している旨の回答があった。				
5. 職員の接遇・態度は適切か	4	1	0	0
5名中4名から「はい」もしくは肯定的な回答が得られている。自由意見では「皆優しい」「(乱暴な職員は)いない。優しいです。」という回答が得られている。				
6. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	3	0	1	1
5名中3名から「はい」もしくは肯定的な回答が得られている。自由意見では「体調が悪い時があったが、対応してくれている。」という回答があった。				
7. 利用者同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	4	0	1	0
5名中4名から「はい」もしくは肯定的な回答が得られている。自由意見では仲が良く今のところトラブルはないという回答のほか、喧嘩などはあるが仲直りをしているという内容で利用者同士で解決している旨の回答があった。				
8. 利用者の気持ちを尊重した対応がされているか	4	0	1	0
5名中4名から「はい」もしくは肯定的な回答が得られている。自由意見では「わかってくれている」という回答があった。				
9. 利用者のプライバシーは守られているか	3	0	1	1
5名中3名から「はい」もしくは肯定的な回答が得られている。総合的な感想の回答では「プライバシーが守られない」という回答があった。				

10. サービスの利用に当たって、利用者の状況や要望を聞かれているか	4	0	1	0
5名中4名から「はい」もしくは肯定的な回答が得られている。自由意見では「嫌なことは伝えている。聞いてくれる。」などの回答があった。				
11. サービス内容に関する職員の説明はわかりやすいか	4	0	1	0
5名中4名から「はい」もしくは肯定的な回答が得られている。自由意見では職員と本人の希望について話し合っていることを伝える回答があった。				
12. 利用者の不満や要望は対応されているか	3	0	1	1
5名中3名から「はい」もしくは肯定的な回答が得られている。「特に困ったことはない」という回答が複数得られている。				
13. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	2	1	1	1
5名中2名から「はい」もしくは肯定的な回答が得られている。苦情ではないが、「外部の担当者と相談している」「話をしている」という旨の回答があった。				

I サービス提供のプロセス項目(サブカテゴリ1～3、5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
評価		標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		☐ 非該当
サブカテゴリ1の講評			
ウェブサイトには運営方針のほか、畑作業など実施している活動も紹介されている 法人のウェブサイトを開示しており、法人概要や、「自然治癒力の向上と自然との共生」という運営方針、法人ビジョン、実施している各事業、各施設の案内などを掲載している。また、リンク記事で運営しているブログを読むことが出来る。情報開示のページでは毎年度の現況報告書などのほか、県内にある同法人の他施設が受審した第三者評価の結果などが公開されている。事業所のページでは施設長からのメッセージや施設の概要が親しみやすい雰囲気です案内されているほか、併設の就労継続支援B型事業で実施している畑作業の様子なども紹介されている。 法人の信頼を獲得すべく、情報の公開と提供に力を入れて取り組んでいる 令和4年度に法人のチラシを刷新し、相談支援事業所や県内および利用者の利用がある3都県の各行政窓口等に配布して事業所を紹介している。調査時点で成果は見られていないが、情報公開と情報提供については法人および事業所で積極的に取り組んでいる。法人として信頼回復の途上であり、情報公開だけでなく、専門性を高めてサービスの質の向上を図るべく有資格者の採用や資格取得の奨励を実施している等、地域社会からの信頼獲得に向け時間をかけて取り組んでいる。 利用希望者には施設見学をしてもらい、希望すれば宿泊体験も可能である 緊急一時利用の場合を除き、入所希望があれば面談を実施している。面談は家族のみ、家族と利用者同席など、希望に沿ったかたちで実施している。利用を検討している人については基本的に施設見学をもらっている。体験宿泊は任意であり希望すれば宿泊が可能である。入所判定をする際は併設する就労継続支援B型事業の作業のことも考慮して判断するが、作業ができなくても問題は特にはなく、基本的には身体的に利用が難しい人以外は受け入れている。			

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
評価項目1 サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者等の状況に応じて説明している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、利用者等の同意を得るようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、利用者等の意向を確認し、記録化している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、利用者の不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	☐ 非該当
サブカテゴリ-2の講評		
契約時は重要事項説明書に沿った説明がされている 見学時に得られた利用者や関係者の意見などは法人内施設間で共有している。当初の情報収集は法人で担当しており、利用者本人の希望は利用前の居所に訪問するなどして聞き取り、記録し内部で共有している。契約時はサービス内容と負担金、苦情窓口や虐待防止の措置などについて重要事項説明書を用いて説明しており、個人情報の利用目的については同時に進める就労支援B型事業の契約と併せて説明し同意を得ている。重要説明事項と契約書については掲示しており、漢字にふりがなを振り利用者に向けた配慮がされている。		
収集した情報に基づき、本人の特性を理解して支援を開始することに努めている 利用開始前に得られた利用者の生活や行動に関する情報に基づき、生活面や対人関係、作業力、問題行動の有無などを評価し、職員間で共有したのちにサービスが開始されている。利用当初は利用者を明るく迎え入れられるよう体制を整え、部屋の配置なども本人の特性を把握して決定することにして、当初の不安軽減に留意している。また、家族からの話で本人のこだわりなどを確認し、そのこだわりをなるべく尊重する事にしており、それまでの生活で慣れ親しんだ枕や人形などの持ち込みもしてもらい穏やかに過ごせることを大切に考え支援を開始している。		
サービスを利用する中で自己理解を促し、他への移行が円滑に進むよう取り組んでいる 利用者は話をしたい人が多いとのことであり、職員が時間の限り話を聞き不安が生じないように留意している。本人が自分で話すことで自分の心的状況に気づき、自己理解が進むことを大切に考えて支援をしている。 利用終了後は家庭に戻ったり他のサービスに移行するが、その際は連絡や調整を丁寧に行うことに留意して、家庭に様子を伺ったり、相談員を通した移行先との情報交換や移行先への情報提供をしている。		

サブカテゴリ-3		
3	個別状況に応じた支援方針作成・記録	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 10/11
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(○○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援方針を作成している 評点(○○○●)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 支援方針は、利用者等の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 支援方針を利用者等にわかりやすく説明し、同意を得ている	○非該当
●あり ○なし	3. 支援方針は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当
○あり ●なし	4. 支援方針を緊急に変更する場合のしくみを整備している	○非該当
評価項目3 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 支援方針に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 支援方針の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
アセスメントは3か月毎に行い、本人や家族の希望を支援に反映させている 殆どの利用者について、サービス等利用計画に基づき利用者個別の支援方針に関する会議を3か月毎に実施しており、会議録に記録している。併設している就労継続支援B型事業の個別支援計画を共用しており、B型事業の計画を3か月ごとに更新しているため、それに合わせてアセスメントを実施している。そのため、短期入所の支援方針はB型事業の個別支援計画にも反映されている。本人や家族の希望については面談機会を設けているわけではなく日常の会話で聞き取り抽出している。		
日中活動と一体となった計画および支援がしやすい環境がある 利用者個々の支援の方針については毎月の職員会議の中で話し合っており、その他の情報と併せ職員間で共有をしてしている。B型事業の個別支援計画書は本人の目標と支援内容、期間、評価が記載される書式であり、短期入所の支援の方針に基づく内容はB型事業の計画に落とし込まれていることもあるため、日中活動と一体となった計画および支援がしやすい環境である。また小規模な事業所であり、職員間の共有と職員各自の支援により、「利用者中心」に支援を検討し、利用者個々に合った支援を提供しやすい環境となっている。		
記録と毎日の申し送りにより利用者の情報を共有している 引継ぎは朝、昼、夕のシフトに合わせて実施されており、記録と口頭により申し送りがされている。ケース記録は時系列で入力し、状況、行動を細かく記録している。また、特記事項をケース記録に記載している。そのほか日々の健康状態チェックの記録などが日々共有されている。記録類は回覧し、職員各自の押印とサインにより確実な情報共有を図っている。		

サブカテゴリ-5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 利用者のプライバシー保護を徹底している		評点(○○○)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者に関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、利用者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 個人の所有物や個人宛文書の取り扱い、利用者のプライベートな空間への出入り等、日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮した支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している		評点(○○)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(利用者が「ノー」と言える機会を設けている)	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
事業所内の会話など、日常生活の中での利用者個々のプライバシーを尊重している 個人情報の利用目的については 併設する就労継続支援B型事業において同意書に利用目的を明示して同意を得ている。日常生活の中では、利用者宛の荷物や封書は本人とともに開封することにしており、保管する場合も本人の同意を得ている。職員に対しては守秘義務を伝え、個人や利用者のプライバシーに関する話を利用者の前で話さないことを徹底している。また、利用者が個人的な話をしたいときなどは別室で話すなどに注意している。 生活空間での利用者のプライバシー保護を徹底している 居室スペースは男女混在であり、基本的には同性介助として支援をしている。また、他の利用者の居室に勝手に入らないことを取り決め、利用者に注意を徹底しトラブルが起きないように留意している。脱衣所は女性の入浴中はその旨を札で知らせ男性が入らないようにしたり、更衣室は外からの視線を遮れるよう配慮しているなど、プライバシーへの配慮がされている。 利用者一人ひとりが意見を言える機会を積極的に設けている 利用者同士の話し合いを頻繁に実施しており、利用者の意見を表出する場を設けている。意見を言わない人もおり、意思表示が乏しい利用者の支援は課題とされているが、積極的に機会を設けている事は評価したい点であった。			

サブカテゴリ-6			
6	事業所業務の標準化		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 2/5
	評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(○●●)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○ 非該当
	○あり ●なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○ 非該当
○あり ●なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○ 非該当	
	評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(○●)
	評価	標準項目	
	○あり ●なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当
	●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている	○ 非該当
	サブカテゴリ-6の講評		
支援については会議の中で適宜情報共有をしている 災害対応マニュアルは法人が作成している。虐待についてはマニュアルが整備されており職員各自が目を通して見ている。感染症については新型コロナウイルスの発生後にマニュアルが整備されている。そのほか洪水に関する避難確保計画を策定し行政に提出することになっている。支援については会議で情報共有している。支援についてはマニュアルは作成していないが、会議の中で適宜情報共有をして支援に反映させている。 業務の基本事項は会議において適宜見直している 理念や運営方針など、支援・サービスの根本的な内容については管理者会議の場などで関連した話をして浸透を図り、方針に沿った支援を職員のだれもが提供できるよう取り組んでいる。業務の基本事項については職員会議の中で話し合い適宜見直しを実施している。			

II サービスの実施項目(サブカテゴリ-4)

サブカテゴリ-4		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	15/15
サービスの実施項目			
1 評価項目1 個別の支援方針をいかしながら、利用者に合った自立生活を送るための支援をしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 支援方針に基づいて支援を行っている	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 利用者の特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している	○ 非該当	
●あり ○なし	3. 必要に応じて、さまざまな情報を提供し、または相談に応じる体制を整えている	○ 非該当	
評価項目1の講評			
支援の方針を立て、自己肯定感を高め個々人を尊重することを基本として支援している サービス等利用計画を参考に会議で話し合い、全員に対してではないが利用者個々の支援の方針を定めている。内容は個別支援会議録に記録し、就労継続支援B型事業と一体となった個別支援計画に基づき日々の支援が実施されている。支援では自己肯定感を高めることや、一人ひとりが主役となることで、自分の意思を尊重してもらったという気持ちにつなげることを大切に考えており、個々人の尊重を基本として支援しているものと推察された。 外部の講師による研修も取り入れて利用者支援の質を高めることに取り組んでいる 視察時は、職員の利用者への関わりはとても穏やかで、個々の利用者の状況や状態に合わせた声掛けや関わりが見られており、利用者が落ち着いて過ごせるよう配慮がされていた。利用者とのコミュニケーションの事例では、聴覚障がいを持つ利用者の場合は筆談に加え発語での声かけなどに取り組んでいる。ただしこれは新型コロナの渦中ではマスクの着用が必要なため難しいこともある。事業所では障害特性について外部の講師を招き研修を実施しており、アンガーマネジメントや虐待防止などのテーマで職員が日々の支援に活かしている。 利用者が気軽に相談できる環境を整えている 相談支援事業所からの来訪は通常であれば定期的にあるがコロナ禍となってからは不定期となっている。事業所内では利用者から話したいことがあれば相談室を利用して対応しており、場所を設けて相談に応じられる環境を整えている。			
2 評価項目2 利用者の主体性を尊重し、利用中の生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の状況や希望に沿って生活を楽しめるように取り組んでいる	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 室内は、利用者の状況に応じて快適で落ち着ける環境・空間にしている	○ 非該当	
評価項目2の講評			
利用者の意見を聞き、コロナ禍であっても利用者が楽しめる娯楽を提供している 利用者会議を開催して利用者の意見を聞く機会を設けている。生活の中の楽しみとしては、日中の農作業や草取りなどの作業がない日には県内の少し遠い地域までのドライブなどを不定期で実施している。ただし外出はコロナ禍の中で実施し難い状況となっているため、土日などの休日は敷地内の駐車場でボール遊びやバドミントンを行なうなど、体を動かすレクリエーションを取り入れている。室内ではゲームなどの娯楽を楽しめるようにしている。 清掃などは利用者にも分担して実施してもらい、快適に過ごせる環境が整えられている 共用スペースは夏の日差しの調節でカーテンの開閉などにも配慮がされている食堂兼談話室は窓が多く、広々とした空間であり、温度管理や空気清浄機の設置により快適に過ごせる環境となっている。食堂の前には給水タンクや個人のコップを用意し、利用者が自分のタイミングで飲める環境が用意されており、休憩の合間に自由に水分補給をする利用者の姿も見られた。浴室や洗面室、洗濯室など水回りは清掃が行き届き、利用者が気持ちよく使う事が出来る。各所の掃除は利用者が分担しているが、確認や指導を職員が細かくおこなっていることが推察された。 館内に自販機を設置し、利用者が小さな買い物を日常的にできる環境がある 玄関前には利用者が自由に飲料水を買えるよう自動販売機が設置されている。お茶や炭酸飲料、コーヒー、ジュースなど色々な種類の飲み物があり、利用者は一週間分のお金を自己管理して、好きな飲み物を購入している。自分で計算しながらお金を使う人もいるとのことであり、小さな買い物ではあるが良い訓練になっているものと推察された。			

3	評価項目3 利用者一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている			評点(〇〇)												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th colspan="2">標準項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 利用者の意向を尊重しつつ、自分でできることは自分で行えるよう働きかけている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 食事、入浴、排泄等の支援は、利用者の状況やペースに合わせて行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>				評価	標準項目		●あり ○なし	1. 利用者の意向を尊重しつつ、自分でできることは自分で行えるよう働きかけている	○非該当	●あり ○なし	2. 食事、入浴、排泄等の支援は、利用者の状況やペースに合わせて行っている	○非該当			
	評価	標準項目														
	●あり ○なし	1. 利用者の意向を尊重しつつ、自分でできることは自分で行えるよう働きかけている	○非該当													
●あり ○なし	2. 食事、入浴、排泄等の支援は、利用者の状況やペースに合わせて行っている	○非該当														
評価項目3の講評																
利用者個々の状況を考慮し、自立に向けた生活上の支援をしている グループホームへの移行の希望などもあり、本人のこだわりを尊重しつつ、自立に向け身の回りのことを最低限出来るよう支援している。入浴や歯磨き、清掃、洗濯などの生活上の支援では、例えば洗濯であれば洗濯物を干すことは本人におこなってもらうなど、まずは自分でやってみて、できることは自分でおこない、出来ないことを職員が支援している。掃除を全くしない人がそのうち掃除ができるようになった、洗濯物を均等に干せるようになったといった事例もあり、個々の日常生活動作の状況を考慮して日常の支援をしている。 入浴や食事など、日中活動と連携して生活上の支援が実施されている 利用者の希望や意向を職員が把握し、そのうえで日中活動と連携した支援を実施している。日中活動から戻るとすぐに入浴となり、その後食事となる。入浴は要介助の利用者が先に済ませ、その後順に利用している。日中活動は併設のB型事業を利用しているため食事は3食すべてを施設内部で提供しており、栄養面なども管理しやすい環境である。 嗜好調査を実施して献立作りに活かしている 食事は新型コロナ対策のため会話を控えるよう周知して横並びで摂っている。一斉に提供しており、小規模な事業所であるため適温での提供ができる。年に2度嗜好調査を実施している。利用者個々の好き嫌いは考慮しないが、調査結果をメニューづくりに活かし、また直接のリクエストにも対応している。																
4	評価項目4 利用者の健康を維持するための支援を行っている			評点(〇〇〇)												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th colspan="2">標準項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 利用者の健康状態や服薬に関して、利用者や家族から必要な情報を収集している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 服薬管理は誤りがないようチェック体制を整えている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 利用者の体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>				評価	標準項目		●あり ○なし	1. 利用者の健康状態や服薬に関して、利用者や家族から必要な情報を収集している	○非該当	●あり ○なし	2. 服薬管理は誤りがないようチェック体制を整えている	○非該当	●あり ○なし	3. 利用者の体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている	○非該当
	評価	標準項目														
	●あり ○なし	1. 利用者の健康状態や服薬に関して、利用者や家族から必要な情報を収集している	○非該当													
●あり ○なし	2. 服薬管理は誤りがないようチェック体制を整えている	○非該当														
●あり ○なし	3. 利用者の体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている	○非該当														
評価項目4の講評																
医療に関する情報や日々の健康に関する記録は個別にファイルされ共有されている 同じ施設内に併設するグループホームの看護師が短期入所の看護業務を兼務しているため、専門的な支援がおこないやすい環境である。医師の意見書や看護サマリー、服薬説明書など支援に必要な情報は職員間で共有し、個別ファイルに保管している。また、利用者の健康状態は看護師が定期的に確認し結果は細やかに記録されている。 服薬管理は看護師が担当し、体制が整えられている 服薬については看護師が管理しており、服薬チェック表を作成し、毎日の薬を整頓して管理し体制を整えている。薬は毎日、朝、昼、夜と看護師が個別の薬ケースに1回分ずつ分けてセットして看護師が与薬している。看護師が不在の時は職員が与薬しているが飲ませ忘れなどは生じていない。また、利用者が拒否することはあるが看護師が上手に飲ませているとのことであり、訪問調査時の現場視察でも、家庭的な雰囲気の中で看護師が利用者とフレンドリーに会話をし、利用者が穏やかな気持ちになるような優しい声掛けがされていた。 緊急時の連絡体制が整備されているが課題もある 緊急連絡網を整備しており、夜間は勤務者から看護師、もしくは管理者に連絡して指示を仰ぐことになっている。緊急時の送迎など連絡後の対応については課題として挙げられており、今後の解決が待たれるところとなっている。																

5	評価項目5 家族等との交流・連携を図っている			評点(〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 家族等との交流・連携に際して、利用者本人の意思を確認し、その意向に基づいた対応をしている	○ 非該当	
	●あり ○なし	2. 必要に応じて、家族等への情報提供や相談に乗るなど支援をしている	○ 非該当	
評価項目5の講評				
家族との連携については本人の気持ちを尊重し、家庭の事情を踏まえて対応している 利用者としては家族に手紙を書いたりしたい人もいますが、家族からの拒否があるときはやむを得ず家族の事情も考慮せざるを得ないため、家族との連絡や連携については本人の意向を尊重しつつ、家族の意見を聞き、事情を踏まえて対応している。 連絡や情報提供を希望する家族とは連絡を取り合い情報交換をしている 家族との連絡は取りづらく、連絡を取り合っているのは半数以下である。利用者の様子を知りたい家族には電話で連絡をしたり、家族からの電話に対応している。半年に一度程度、一時帰省できる利用者の場合は、家族との間で自宅と施設での様子について情報交換をして、利用者が問題なく過ごせるよう留意している。				
6	評価項目6 地域で自立した生活を送れるよう支援をしている			評点(〇〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 地域の情報を収集し、利用者の状況に応じて提供している	○ 非該当	
	●あり ○なし	2. 必要に応じて、利用者が地域の資源を利用し、多様な体験ができるよう支援している	○ 非該当	
●あり ○なし	3. 必要に応じて、関係機関(日中活動事業所、相談支援事業所等)と情報共有を行い、支援に活かしている	○ 非該当		
評価項目6の講評				
地域の草刈りはコロナ禍により外出機会が減少した利用者の良い気分転換になっている 地域においては月に1度の買い物訓練のほか、河川敷の草刈りボランティアへの参加や、併設する就労継続支援B型事業の仕事として地域の草取りなどを実施している。コロナ禍となり外出の機会も減っているため、草刈りは利用者にとっても良い気分転換になっているようである。地域の人たちから時折差し入れなどもされており、地域における施設の認知度は高いとのことであったが、日常的に挨拶を交わすなど事業所としても地域とのかかわりを大切に考えている。				

Ⅲ 利用者保護に関する項目

利用者保護に関する項目		標準項目実施状況	7/9
1 評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○ 非該当	
2 評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○ 非該当	
3 評価項目3 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる			
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○ 非該当	
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○ 非該当	
○あり ●なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○ 非該当	
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○ 非該当	
利用者保護の講評(※利用者保護の内容から3つ(必須)記載してください)			
苦情解決制度について利用者に周知し、また、利用者の声を聴くことに取り組んでいる 苦情解決制度については重要事項説明書に苦情窓口と責任者、第三者委員と県の担当課および県社協の窓口を記載して契約時に周知がされており、館内に掲示している。また、第三者委員については連絡先を明記して周知している。苦情は管理者(責任者)から本部に報告され、管理者会議において内容についての話し合いが持たれている。また、利用者から意見があった場合は毎月の職員会議で必ず話し合うことにしている。日常的な利用者の意見などは利用者会議を開催して聞く機会を設けている。 虐待防止委員会を設置し、定期的な研修により虐待防止の意識を高めている 責任者を定めて虐待防止の措置を講じている。令和4年4月に虐待防止委員会を設置し、毎月の職員会議時に開催している。委員会ではチェックリストの実施や倫理綱領の浸透、ヒヤリハットの事例報告などがされている。また、看護師から虐待事例の報告がされている。倫理規程は職員会議開催時に毎回説明して周知することになっている。また、マニュアルは各自が目を通している。そのほか、毎月法人本部から担当職員が来訪し虐待防止の研修を実施している。研修ではグレーケースなどについて話し合い、定期的に意識の向上が図られている。 新型コロナウイルス感染症対策を優先し、徹底して感染防止に取り組んでいる コロナ禍以降は感染症対策を優先し、行政のマニュアルに準じた感染対策マニュアルが活用されている。施設では消毒、手洗い、うがい、朝晩の検温など実施し、施設内の消毒を徹底している。事業継続計画(BCP)は未作成である。また、備蓄品は今後充足させていく予定である。防災訓練は発生時の避難、消火訓練など年2回、計画に基づき実施している。発生時の避難所は定めているが、前回の水害発生時に行政機関のハザードマップが有効でなかったため市が避難先などを再構築中であり、合わせて施設の防災対策を再構築していくことを期待したい。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	個別の支援方針をいかしながら、利用者に合った自立生活を送るための支援をしている
タイトル①	家庭的な雰囲気を大切にして利用者が安心できる生活環境づくりをしている	
内容①	玄関正面の壁には、草取りや農作業の様子を写した大きな写真の掲示がされている。また利用者が生産したイチジクや、それを加工したドライフルーツの写真、それらを納入している地域の洋菓子店の人たちの写真も掲示されており、事業所の日常の様子が伝わってくる。 小規模な事業所であり、家庭的な雰囲気を大切に考えている。親身なコミュニケーションにより、家庭と同様に当たり前に接する日常の支援の中で利用者が安心できる生活環境づくりをしている。また、支援を担う職員はベテランが多く、利用者が安心できる人員を配している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-4	利用者の健康を維持するための支援を行っている
タイトル②	利用者一人ひとりの健康維持への配慮が丁寧に行われている	
内容②	看護師が常駐し、毎日の利用者の健康状態を観察したり、与薬、病院への付き添いなどをおこなっており、それらの支援は細かく記録に残されている。また、利用者一人ひとりの健康状態の記録は個別にファイリングされ職員間で共有しやすい環境がつくられている。施設内は清潔で衛生的な環境が保たれ、日差しや室温の調節などにも細やかな配慮がされている。看護師は利用者の状況を細やかに観察し、状況に応じて優しく声掛けを行い、利用者の健康維持への配慮が丁寧に行われている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	併設するB型事業と連携し、安定した生活の中でやりがいを持てる活動ができる環境がある
	内容	自然と触れ合う仕事や環境を通して自然治癒力の向上を図ることを大切に考え、「農福連携」を軸に利用者の生きがいにつながる支援を目指している。併設する就労継続支援B型事業では日中の生産活動として畑作業や草むしり、イチジクの栽培、加工、出荷用の箱作りなどがおこなわれている。比較的重い利用者を受け入れているなか、全員が日中活動に参加し、通所の心配もなく併設する日中活動に参加できており、実際に活動に意欲をもって取り組んでいる利用者もいるなど、自立に向け安定した生活がしやすく、やりがいを持てる活動ができる環境がある。
2	タイトル	利用者個々の意見や希望ををよく聞き、利用者主体の支援に取り組んでいる
	内容	自己肯定感を高めること、一人ひとりが主役であり自分の意思を尊重してもらったという気持ちにつなげることを重視し、個々人の意見や希望をよく聞き、一人ひとりを尊重することを基本として利用者主体の支援に取り組んでいる。利用者から希望があったときや人間関係がうまくいっていない時など、何かあれば利用者会議を開催し、利用者の意見を聞く機会を設けている。利用者同士の話し合いは全員参加で頻繁に行なわれており、これは「利用者主体」に向けた事業所における支援のポイントの一つとしている。
3	タイトル	地域・社会からの信頼を獲得すべく、人材の確保と育成に力を入れている
	内容	法人として専門職の採用に取り組み、事業所では看護師のほか介護福祉士の採用がされている。また、令和4年度には給与制度に資格手当を加えて資格取得の奨励をしており、専門的スキルを高めることで人材の底上げを図っている。支援実践面では虐待防止委員会を設置して虐待防止の取り組みを強化し、また、外部講師を招いて障害特性やアンガーマネジメントについての研修を実施するなど、法人として日々のサービスをまっとうに行なっていくことを念頭に支援の質の向上に取り組んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	事業継続計画の策定など、災害時の備えを万全にしていけることを期待したい
	内容	避難訓練は定期的に行っているが市のハザードマップが再構築中であるため、避難先などは今後整理する必要が生じている。また、非常時の備蓄品は今後充足させていく予定である。事業継続計画(BCP)は未作成であるため、大規模災害時の安全確保と併せて整備し災害時の備えを万全にしていけることを期待したい。
2	タイトル	利用者の生活の場や活動の機会を一層広げていくことは課題となっている
	内容	併設する就労継続支援B型事業を利用者全員が利用していることもあり、日中活動と一体となった支援がしやすい環境であり、連動した支援ができている。一方、外部の法人や事業所との連携はあまりされていないのが現状である。地域において利用者の生活の場や活動の機会を一層広げていくためにも、外部との連携を地道に少しずつ進めていくことが望まれる。
3	タイトル	
	内容	